

外国人が兵庫で  
「働く」「暮らす」は  
当たり前



鼓ヶ滝に向かう滝道沿いの「御所別荘」のエントランスで

Case Study

その人がここにいる理由を  
想像して受け入れてほしい

北アフリカ・モロッコから「情報知能工学を学びたい」と、金井良宮さんが留学生として日本にやって来たのは1999（H11）年でした。フランスのドキュメンタリーやニュースが伝える日本のイメージは、伝統がありながらスーツを着てパソコンを携えたビジネスマンが闊歩する洗練された国。来日前に「山ばかりの地震大国」と地理で学んだ日本が、石油などの貴重な資源もないのに世界経済をリードしているのも不思議だったそうです。

神戸大学のクラスメートに、のちに夫となる一篤さんがいて、1年生の夏、友人たちと一緒に有馬の夏祭りに誘われました。「それまでに京都の大きな祭りは見に行ったけど、小さな町は初めて。地元の人も宿泊客も一緒になって楽し

む祭りで、互いに言葉が通じなくてもコミュニケーションできて楽しかった」。温かいもてなしを受けて、ここが自分の場所でもあると自然に感じられたそうです。

夫の実家は有馬屈指の歴史を誇る1191年創業の「陶泉 御所坊」。良宮さんは2011（H23）年から老舗の一員として働き始めました。「有馬で仕事をして見えてきたことは細かい歴史。その中に代々ものが伝わる理由がありました。例えば阪神・淡路大震災で観光客の足が遠のいた時、有馬で初めて始めた日帰り温泉。危機を機会に変える発想で新しい仕組みを作り、回復させる力があると思う。だから今回の新型コロナウイルスの影響も心配はするが、永遠には続かない。きっと何とかなると楽観的に思えます」と話します。

歴史と場所の魅力解きほぐし  
有馬の文化の魅力を伝える

ブランドマネジャーの仕事は、歴史と場所の魅力を解きほぐして有馬の文化



ゆったりとしたぜいたくな空間が広がる離れ

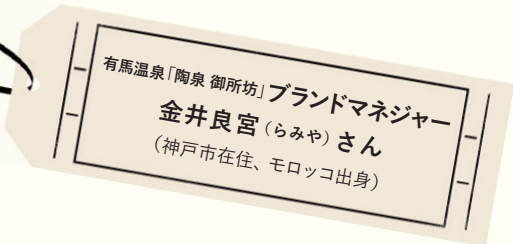


入社5年目フィリピン出身の澤田タイロンさんと打ち合わせ

を紹介することだそう。「自分一人の力でなく夫や仲間とも協力して、どう表現するか考えています」。いま注力しているのは、もとは寺や関西財閥の別荘だった場所にある「御所別荘」。国際的な温泉リゾート地にふさわしい全室離れサマーラーム付きスイート10室の宿でも、外国人スタッフが4人働いています。

良宮さんは言います。「ある人がいろいろな理由でその国や地域に興味を持ち、国内外を移動していくのは当たり前のこと。だから、その人がなぜここにいるのか、その人の気持ちをわかった上で、地域のメンバーの一人として受け入れてほしい。私が留学生として国を出た時、モロッコの家族は帰ってくると思っていました。でも私は有馬にいます」

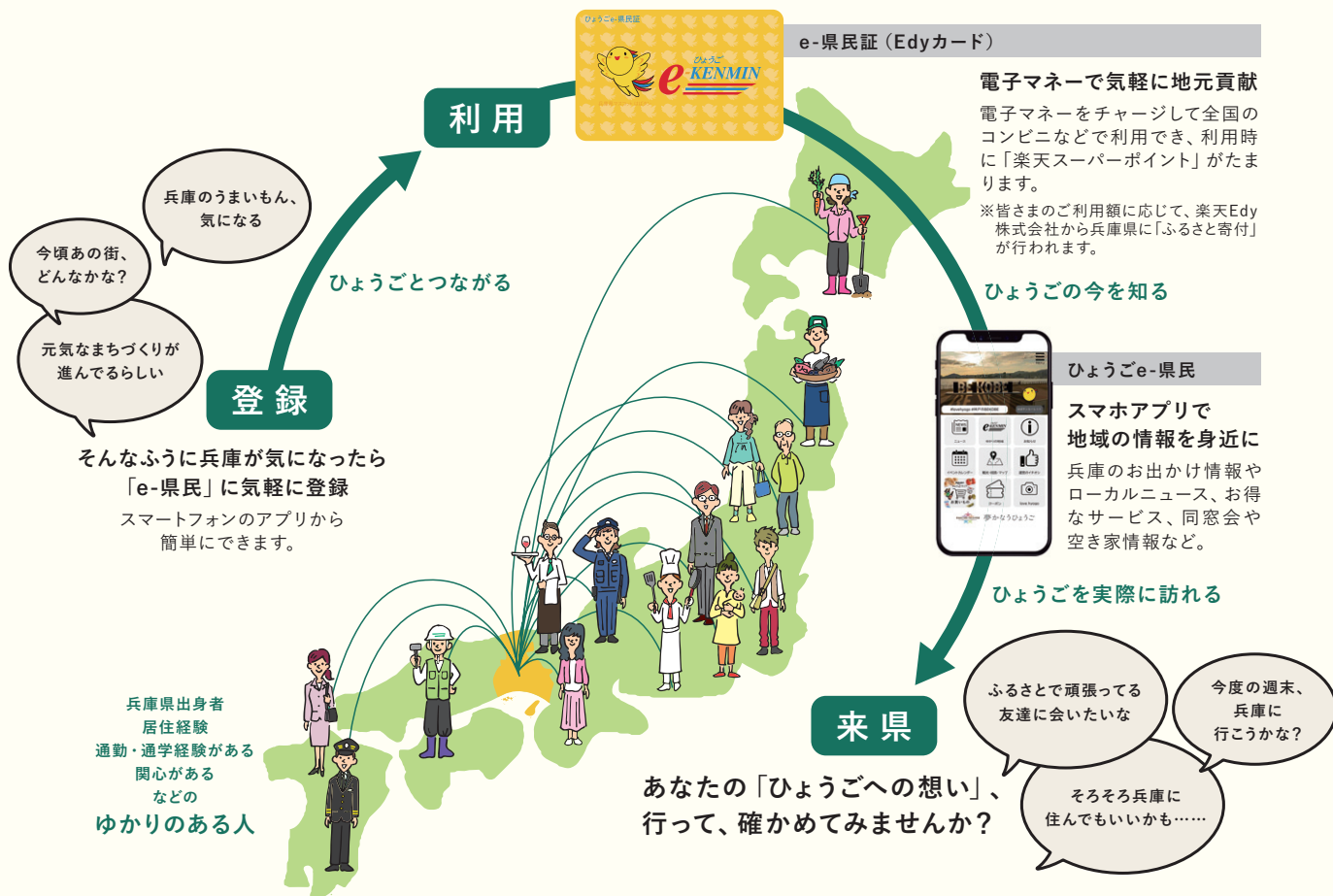
元々「いろいろな国へ行き、広く世界を見たい」と思っていた良宮さんは、小さな温泉町で世界の国から訪れる様々な人たちを待っています。



有馬温泉「陶泉 御所坊」ブランドマネジャー  
金井良宮（らみや）さん  
（神戸市在住、モロッコ出身）

## ひょうごへの想いをつなげる「ひょうごe-県民制度」

全国の都道府県で初めて、兵庫県にゆかりのある人たちの「ひょうごへの想い」を地域づくりにつなげようと2019年にスタートした「ひょうごe-県民制度」。スマートフォン向けアプリのリリースもあり、制度発足から1年で登録者は3万人を突破。出身者だけでなく、一時期を兵庫で暮らしていた人、兵庫に関心がある人など、離れていても「兵庫がちょっとなつかしい」「兵庫をちょっと知りたい」人たちの注目を集めています。



離れて暮らす人も、スマホアプリでふるさとの情報を身近に・便利に！



地域の旬な情報



ゆかりの地域の情報



兵庫県のイベントや観光情報



アプリのご利用にはひょうごe-県民制度へのご登録が必要になります。

右記のQRコードを読み取ってください



[ios]



[android]